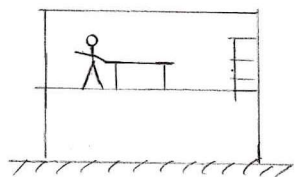


1. 積載荷重の大小関係 (令85条) → 床の構造計算を行う場合の積載荷重 住宅 < 教室 < 事務室
2. 地震層せん断力の大小関係 (令88条) → 建物の下層ほど大きくなり、最下層が最も大きくなる
3. 多雪区域の積雪荷重と地震荷重の組み合わせ (令82条1項第2号) → 短期積雪荷重の0.35倍の雪が積もった状態を考慮する
4. 屋根ふき材等の構造計算に用いるべき風力係数 (令82条の4) → 局部風圧の全風向中の最小値に基づいて定められている

1. 積載荷重の大小関係 (令85条)

とは → 人や物品の荷重。室の用途によって定められている



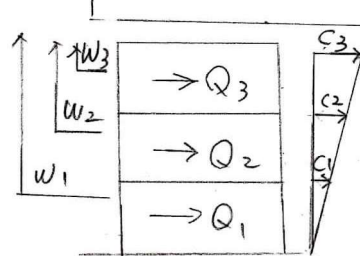
例: 住宅 1800 N/m²
 教室 2300 N/m²
 事務室 2900 N/m²

床の構造計算を行う場合の積載荷重

住宅 < 教室 < 事務室

2. 地震層せん断力の大小関係 (令88条)

とは → 地震により建物の各層(各階)に生じる水平力(Q₃, Q₂, Q₁)



→ その階が延べ面積 × 地震層せん断力係数

$$Q_3 = W_3 \times C_3$$

$$Q_2 = W_2 \times C_2$$

$$Q_1 = W_1 \times C_1$$

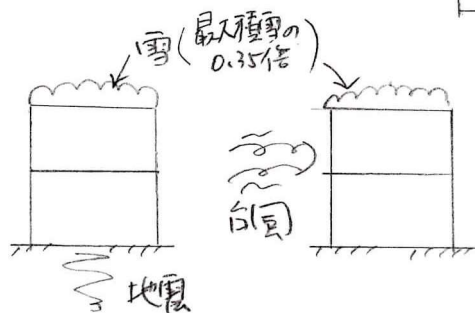
地震 ↑ 接合の太さ

3. 多雪区域の積雪荷重と地震荷重の組み合わせ (令82条1項第2号)

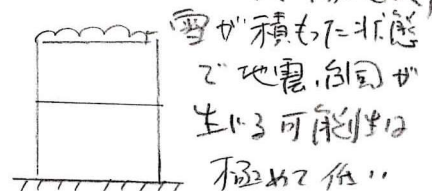
とは → 垂直積雪量が1m以上の区域 (山陰, 北陸, 東北, 北海道など) (一般区域)

→ 雪が積もった状態が何日も続く地域 ↔ 雪が少い地域

→ 雪が積もった状態で地震, 台風が生じる可能性がある (一般地域)



多雪区域



一般地域

4. 屋根ふき材等の構造計算に用いるべき風力係数 (令82条の4)

→ 外装材に生じる局部的な風圧力(=5) 外装材が外れれば構造計算を行わない
 風圧力 $W = \text{平均速度圧} \times \text{風力係数 } C_f$

